



恩納村の文化財 67 文化財担当：大城

## 歴史の道

— 国頭方西海道について —

山田谷川の石砦

歴史の道としての「国頭方西海道」は琉球王国時代（1429～1879年）に整備された主要道で、山原と中部を繋ぐ道でもありました。琉球王国時代の主要道は、首里を起点として、国頭方、中頭方、島尻方への7本の道が整備されました。恩納村には国頭方西海道が通っており、当時の様子を知る文化財が残されています。今回は歴史の道に関連する文化財を紹介していきます。真栄田の一里塚は、字真栄田に人工的に設置された塚で、一里（約4km）ごとに築られました。フェーレー岩は、字真栄田にある岩のことで、当時はこの付近は昼でも薄暗いためフェーレー（追い剥ぎ）がよく出没したと伝えられています。山田谷川（ヤーガー）の石砦は、字山田の谷川（ヤーガー）に架けられた石砦で、琉球石灰岩の野面積みの橋桁部分に美しいアーチが特徴的です。仲泊遺跡には、先史時代の遺跡だけでなく、琉球王国時代に整備された比屋根坂石畳道があります。石畳道は仲泊側と山田側の丘の斜面に琉球石灰岩を敷き詰めて造られています。仲泊の一里塚は、自然の丘を利用した塚で、真栄田の一里塚とともに沖縄県内でも一里区間を示す塚が残っているのは、恩納村のみで、貴重な文化財となっています。



※4月25日に予定されていましたが令和2年度歴史ロードを歩こう事業は、現在感染が拡大している新型コロナウイルスの影響で延期となりました。開催時期に関しましては、決まり次第ご案内いたします。